

研究の概要

研究主題

粘り強く課題に向き合い、自ら考える子ども ～ICT 機器活用を通して～

1. 研究主題設定の理由

昨年度は、「進んで考え、互いに学び合う子ども」の研究主題で校内研究に取り組んだ。成果として、「ICT機器を活用することで、児童が興味をもって授業に取り組むことができ、児童の意欲向上につながった」「児童にとって身近に感じるものや事象を取り扱うことで、児童は意欲的に学習に取り組むことができた」などが挙げられた。

今年度の研究テーマを設定するにあたり、東蒲小の子どもたちの課題を見つめ直したところ、「問題を見ただけであきらめてしまい、自力で考えようとしなない」「問題文をじっくり読まずに課題に取りかかって、早とちりしてしまう」、「自分の考えをもつことができないまま、時間切れになってしまう」などの課題が挙げられた。それらの児童の姿から、研究主題を「粘り強く課題に向き合い、自ら考える子ども」とし、昨年度の研究の成果として、「ICT機器を用いることが児童の意欲向上につながった」ことから、副題を「ICT機器の活用を通して」と設定することとした。

今年度も、教科は定めず、さまざまな教科や活動の中で、子どもたちが進んで考え、子ども同士が対話をしながら学びを深めていく姿が見られるよう、研究を進めていく。合わせて教師側も児童側も、ICTに関する技術向上を目指す。

主題に対してどのように児童の変容を見取るのか工夫が必要である。

2. 研究の方法について

①授業研究を通して学ぶ。

分科会は、低・中・高学年、特別支援教室の4分科会とし、研究主題に沿った授業を分科会で1本行う。

②講師の先生を依頼し、研究授業後に研究協議会を行う。

③調査・PR部会を設置し、実態調査や意識調査を行って研究の成果が分かるようにする。